

学生の暮らしと学びの継続を、組合員同士の協同と大学との協力で実現します！

2020年5月16日 全国大学生協連理事会

1. 学生(学部生・院生)の暮らしと学びの継続が課題となっています。

新型コロナウイルス感染症の流行による不安や、行動自粛・休業要請などの感染防止対策が人々の暮らしに大きく影響しています。大学生の暮らしと学びへの影響も甚大となっています。全国大学生協連が実施したアンケートでは、学部生・院生から合計37,000件以上の声が寄せられました。¹

学生の声からは、「人と会えなくてさみしい」「現状では未来に期待がもてず不安が募る」「金銭的に困難な状況で、退学若しくは休学をせざるを得ない」など、私たちのキャンパスライフを揺るがす“暮らしの危機”と“学びの危機”そして“コミュニティの危機”に直面しています。

2. 学生の願い・私たちの願い ～ 「学びたい」「つながりたい」

「研究がしたい」「新しいことを学びたい」「新しい友達が欲しい」「自分の夢を実現したい」

こうした願いをもって、大学生はキャンパスライフを過ごしています。しかし、今の状況ではそうした願いを実現できない状況になってきています。大学生全員がこの願いを諦めるのではなく、この状況の中で少しでも願いをみんなで実現していくために、お互いにつながることが大事になります。

大学生協は「よりよき生活と平和」を実現するために、組合員同士のコミュニティづくりに取り組んできました。そして「学園に広く深く根ざした生協」として大学と協力することで、学生・教職員のコミュニティを豊かにしていく存在として、様々な危機を乗り越えてきました。組合員同士がつながることで豊かな生活を実現する組織として、大学とともにこの危機を乗り越えていきたいと考えています。

3. 組合員同士の協同と大学との協力で、学生の暮らしと学びの継続を目指していきます！

● **学生・教職員どうしによる協同を通じて、学生の暮らしと学びを守ります！**

人と人との物理的距離が求められる状況で、人と人との「協同」を通じた生活向上への意識が希薄になっています。今の状況下で、組合員同士がつながり、声を発し、互いに今できることを持ち寄る「協同体験」を生み出すことで、この危機を乗り越えていきたいと考えています。

● **大学と協力しながら、組合員のキャンパスライフの継続と大学の発展を目指します！**

大学を含めた社会全体にとって未曾有の危機に直面しています。大学と生協が協力することで、私たちの生活・学びの場であるコミュニティの向上をともに目指していきます。大学と生協がともに、学生・教職員の「学びたい」「つながりたい」という願いを実現していこうと考えています。

● **組合員の声と参加、そして対話で、一緒に解決策を見つけます！**

大学生協の取り組みはすべて、組合員の声と参加がスタートです。まずは組合員が今の困りごと・願いを声にして、対話を生み出すことで解決策を模索できる環境を生み出します。また生まれた解決策を実現するため、大学生協をフィールドとしてできることを挑戦したいと考えています。

大学生協は、大学とともに豊かなキャンパスライフを実現する存在です。キャンパス内での活動が制限され授業の形式も大きく変わる中で、大学生協の食堂事業や教科書事業をはじめとした供給活動にも大きな影響が出ています。しかしそのような中でも、私たちは人と人がつながり願いを実現していく組織として、大学とともにこの危機を乗り越えていこうと考えています。

「未来は我等のものなり」 私たちの未来は遠くとも必然であると信じ、危機を乗り越えていきます。
(1935年 賀川豊彦)

¹ 「緊急！大学生・院生向けアンケート」(4月20日～30日実施) 学部生 35,542 回答・院生 1,702 回答

参考資料 | 私たちの願いと学生を取り巻く危機

2020年4月20日～30日に全国大学生協連が実施した「緊急！大学生・院生向けアンケート」に寄せられた学部生 35,542 回答・院生 1,702 回答の声から学生の願いと取り巻く状況について紹介します。

※特に今回は、自由記入欄に記載いただいた学部生 6,408 件と院生 492 件の声に注目し、学生を取り巻く状況を考えます。

※抜粋した声について、個人が特定される記述については、記述いただいた趣旨が変わらない範囲で事務局にて修正しております。

●暮らしの危機 ～「学費や生活費の見通しに不安があり、安定した暮らしを継続できない！」

新型コロナウイルス感染防止による自粛・休業などの影響で、学生がアルバイトできない状況になっています。また、保護者の収入が減少するケースも見られ、学費や生活費を工面できない人も多くいます。この先の経済状況については、アンケート回答者のうち「非常に不安」「不安」と回答した学生は60%以上となりました。安定した生活を維持することができない学生が増え、健康で文化的な生活ができていません。

「5月の連休明けよりオンライン授業の予定だが、学費は通常通りの高額な金額が引き落とされる。コロナの影響で親の収入が減少する見通しで、大変大変厳しい。頑張って受験勉強して合格したが、入学式を含め一度も登校することなく、コロナによる経済的な理由で退学しなければならないかと思うと、真っ暗で絶望的な気持ちになる。」

「親に頼らずアルバイトで学費を賄ってきた身として、奨学金の返済が卒業後に控える中、コロナの影響でそのアルバイトすらできず、不安です。」

「もうほとんどお金が入ってこない状況です。今は親の仕送りと奨学金(毎月の家賃の分)と貯金で生活しています。休業補償があるとの連絡もバイト先から来ませんし、政府から10万円給付されるとしても、心許ない状況です。」

●学びの危機 ～「Web授業が不安!」「実験・実習ができない!」「進路の見通しが立たない!」

対面での授業や実習が困難な中で、どう学びを維持するかは大学ごとに対応が異なります。その中で、Webを活用した学びの内容への不安や、実験や実習ができない懸念も抱えています。また、進路についても例年とは異なる方法が求められる職種・業種もあり、65%以上の学生が進路への不安を感じています。

「新入生でわからないことだらけの中、Web授業になり友達や先輩などと全く知り合えない状態はかなり大変です。半年間休校にして9月からのスタートにして欲しいです。」

「実験がちゃんとできない状態で単位をもらえとしても意味がない。研究室配属の時期が遅れることによって、将来の進路を考える時間が短くなってしまう。」

「卒業論文を書くために履修するゼミがWeb授業になるのかどうなるのか分からず、不安しかない。会社説明会を中止したほとんどの会社から追加の連絡がこず、ただでさえ不安な就職活動がさらに不安になった。」

●コミュニティの危機 ～「友達がゼロ」「孤独を感じている」「学び合い・励まし合いができない!」

対面で会えない中で、大学での友達ができない状況もあります。友達が「0人」と答えた学生が7,669名/20,694回答という結果からも、気軽に相談したり、学び合い・励まし合うコミュニティができていません。

「関東から関西に来て知り合いも全くいなくて、新歓とかで友達作りたかったけどそれもどうなるか分からない。帰省したいけど帰省できない。」

「大学が始まらないと友人をつくる機会が無いので家に一人していると孤独を感じる。また、出身が現在と違う場所であるため、生活に関する相談やわからないことなどを聞く相手がいない。」

「新入生です。生協の友達作りのオリエンテーションを当てにしていたのですが、なくなったため、新しい友達ができなくて悩んでいます。SNSでは何人かと繋がっていますが、直接はまだ一度もあったことも話したこともなくて不安です。」

このように刻一刻と変化する情勢、そして先行きが不透明な学びや暮らしといった懸念が積み重なり、相談できる仲間やコミュニティも見つけれずに、心理的ストレスを抱えている学生が多いです。

「友人ができずに、学校にも一度も行けていないという状態はかなり酷であると思う。」

「春から下宿している新大学生です。元々の性格に加えまともな大学生活を送ることが出来なくなったことも相まって毎日不安で怖くて仕方がないです。話し相手もおらず寂しくて、もう大人なのに毎日のように泣いています。」

「実家にも帰れず、知り合いも話し相手もないので、家に一人でいるとかなりのストレスが溜まり、体調を崩した。」